

平成29年度第1回砺波市行政改革市民会議会議録（要旨）

1 開催日 平成29年7月10日（月） 午後3時～4時40分

2 場所 砺波市役所 本館3階 小ホール

3 出席者 <市民会議委員 12名>

飯田委員、上田委員、尾栢委員、島田委員、杉林委員、武田委員、津川委員、中嶋委員、中村委員、野村委員、早崎委員、山路委員

（齊藤委員、山森委員は欠席）

<市当局・事務局 19名>

夏野市長、齊藤副市長、山本教育長、今井企画総務部長、齋藤福祉市民部長、加藤商工農林部長、喜田建設水道部長、愛場砺波総合病院事務局長、三部教育委員会事務局長、天野庄川支所長、坪田企画調整課長、南財政課長、畑総務課長、金子総務課情報政策班長、二俣総務課行政係長、高畑総務課防災・危機管理班長、境総務課人事係長、久保総務課行政係主任、高野総務課行政係主任

4 説明及び協議内容

- (1) 砺波市行政改革市民会議の趣旨について説明を行った。
- (2) 会長に中村委員、副会長に杉林委員を互選した。
- (3) 行政改革推進体制及びスケジュール等について説明を行った。
- (4) 行政改革報告書及び行政改革推進計画について説明を行った。
- (5) 提案型事業評価について説明を行った。
- (6) 砺波市公共施設等総合管理計画について説明を行った。
- (7) (3)～(6)の説明を受け、意見交換を行った。

5 意見・協議の概要

- (1) 行政改革推進体制及びスケジュールに関する意見・質問
特にご意見なし
- (2) 行政改革報告書及び行政改革推進計画に関する意見・質問
特にご意見なし
- (3) 提案型事業評価に関する意見・質問
ア 「提案型事業評価対象事業」について

【委員】

「資料6-3の平成29年度提案型事業評価対象事業一覧」の説明があったが、2番目の項目（地域包括支援センター（直営）運営事業）が大きな問題か？

【 市 】

どれが一番というものではない。1～5まで、担当部署で課題になっていること及びその解決案を提示したものである。

【委 員】

しかしながら大きな課題であることには間違いないのではないか。

将来的に見て、今の段階から解決を図っていかないと、5年後10年後には大変なことになるということ。

【 市 】

地域包括センターを運営していくためには、主任介護支援専門員が必置となっているので、委員ご指摘のとおり大変重要なことであると認識している。

【会 長】

行政の役割として取り組んできたもののうち、再考しなければならないところに来ているものがあるということ。それをこの提案型事業評価は端的に示している。

今ほど委員からお話があった2番の課題（地域包括支援センター（直営）運営事業）というのは、ニーズが変化していく中であっても行政として対応して行かなければならないということかと思う。

1番の課題は、例えばそれぞれの行政サービスについて、どのような形で負担を求めていくのか、あるいはどのように目的にかなった形で運営していくのかという話になっていくのかと思うし、4番の課題や5番の課題になってくると行政の関わり方、市民生活との関わり方の再検討、それぞれの問題の大きい小さい、金額的なもの機構的なものがあるかと思うが、考え方を一つ一つ整理していくことが大事かと思う。

イ 「小・中学校卒業記念品贈呈」について

【委 員】

資料6-3の4項目めの「小・中学校卒業記念品贈呈」については、10市のうち4市しか贈呈されていないということで、廃止等を含めて検討されているようだが、実際辞典などが今の時代にかなくなったものなのかという問題が一つと、それを廃止する代替となるものがあるのか、何か新たな提案があつて廃止するのではあれば良いが、ただ単に廃止又は縮小を考えているのか現時点の方向性を聞かせていただきたい。

【 市 】

和英辞典あるいは印鑑ケースが子供たちの成長に役立っているのか、あるいは心に残るものになっているのか、疑問があるということでこういった課題提起をさせていただいている。

今ほどのご意見を踏まえてそれに代わるものがあるか検討して参りたいと考え

ている。

【会 長】

砺波市に限らず、小学校、中学校、高等学校まではここに居るのだけれど、高等学校を卒業して市外あるいは県外へ出て行く生徒さんがたくさんいらっしゃる。その方々に砺波市に愛着を持って再び砺波で暮らそうという思いを持ってもらうという時には、小学校、中学校時代の思い出が大切だと思っている。

そういう時に記念品をお渡しするという形で思いをお伝えするのが良いのか、あるいはもっと別の形で砺波市に育ったということを誇りに思って、あるいは思い出になる形で送り出す方が良いのか、いろいろな選択肢を踏まえていかなければならないのかなと思う。

次回の検討会でまた提起されてくるかと思うがご検討いただけたらと思う。

(2) 砺波市公共施設等総合管理計画に関する意見・質問

ア 「図書館」と「公共施設の維持管理方法」について

【委 員】

図書館の新設について、20億円をかけて単独施設ということだが、複合施設にしてパーテーションとかで区切るなどして色々な用途に用いることができる施設にすればよかったのではないかと思っている。

それから、図書館の建設場所が決まった経緯が、よく分からない。安念市政の時には候補地がまだ決まっていなかった。

また、あの場所になると非常にコストがかかるし、窓を閉め切るなどして換気をしなければならない等、イニシャルコストの他にも費用がかかる。そういうものを敢えてやっておいて、公共施設のこれからの総合管理計画に入れていくのは、解せない。

それからもう一つ、砺波市全体の公共施設をみると、それぞれの施設の維持管理に関しては、施設の職員に任している感じではないかと思う。例えば修繕とか保全とかの専門的な方がいらっしゃるのではないか。国のように全体の絵図をつくって専門的な立場で維持管理を進めて行った方が良いのではないか。見積りをとるにしても何を発注してよいのか発注の仕様すらわからないだろう。その関係の良い知恵を市で出していただきたい。

【会 長】

図書館をはじめ、これからの時代はハードよりソフトの方が大切になってくる気がする。施設図書館として整備された後に、どういうふうに使われていくのか、どういう形で市民の暮らしに役立てていくのか、そのあたりを今後考えて行かなければならないと思う。

例えば、私の大学の図書館でも昔の図書館とはぜんぜん違ってきている。以前は本を借りてそこで読むという場所であったが、それが学習の場であったり、あるい

はグループで何かを活動する場であったり、そういうことを含めて公共施設の問題というのはハードだけの問題でなく、今ほど委員がおっしゃったソフト面の問題も関連してくると思う。

また、二つ目で営繕補修のご意見をいただいたが、これは、公の施設を維持管理していく中でどういったやり方が一番適正なのか、今一度考えていく必要があるもの。

行政には行政の考えや、制約条件等が色々あると思われるが、今後機会があればそういったことも検討いただき、議論を深めていただければと思う。

イ 「図書館の耐震診断」について

【委員】

現在の砺波図書館は耐震診断がされていないのではないかと。建替えまで我慢するのか、災害が起きた時はどうするのか。その辺の本質的な維持管理等、それに代わる対応策というものをしっかりとやるべきだ。

【会長】

今ほどいただいた件については、基本的に行政サービスを提供して行くうえで、常に意識していかなければならないところであると思う。このようなご意見を踏まえながら今後も検討していただけたらと思う。

(3) 意見交換

ア 「防災対策」について

【委員】

災害関係で一点。災害が多いと平地の方は水がつかないが、九州の災害をみて思うに、中山間地が心配だと思う。

砺波市というのは、住み良さランキング全国2位となり、我々としても喜ばしいが、(市街地以外の周りも含め)全体としては果たしてどうかなと思うことがある。つまり、砺波市のうち、一部は良いけれども、少し離れたところは、まだ改善すべきではないかなと感じる。

イ 「企業の人手不足」について

【委員】

商工会議所には、各企業では人手が足りず悩んでいるという声が寄せられている。新しく学校を出られる方々をいかにして砺波市に、また大学であれば県外に行かれて、県内でもちょっと富山の方に行かれても、どうやって砺波市に戻って砺波市内の業者にお勤めいただくべきかを考えたうえで、取り組みをしていただければと思う。

例えば、本来は核家族化ではなくて、お爺ちゃん、お婆ちゃんと一緒に住むというのが望ましいのであろうが、今後独立して自分の家を建てる、あるいは家を借りる

となった場合においても、何かしらの住宅の手当など、そういうものが必要となってくるのではないかと思う。

ウ 「公共施設の配置」について

【委員】

公共施設における問題点は、今までとは違って、今後30年間も見越したうえで、どうあるべきかを考えていかなければならないという点。

30年の間で、従来に比べ市全体としては相当な人口減少が続くわけだが、その人口減少は地域によって開きが出てくるものと思う。例えば、砺波の場合はイオンのある杉木の人口が増えている反面、中間山地域の方や市街地から離れた方は急激な人口減少が出てきている。特に若い人がいない。お年寄りばかりの住宅が出てくる。これを砺波市全体の人口が30年後どれくらいになってくるのかでなくて、その地区その地区での人口の推移を考えた時に、私はこれからつくる公共施設はポイント的に分散させないといけないと感じる。

私はその中核は校下だと思う。今、小学校が八つあって、おそらく将来的に五つになるのか分からないが、中学校は四つしかない。これも恐らく減ってくる。そこを砺波の中心地に集中させるのではなくて、ある程度の地域に配置するというやり方をすべきであると思う。

エ 「公共施設等総合管理計画」について

【委員】

さきほど説明を受けた「資料7」の「概要版」であるが、①のグラフの斜め線は何か。回帰直線ではないようだが。

【市】

平均をとった線である。

【委員】

同じく資料7の概要版の③の右の図について、公共施設の更新費用ということになっているが、どうみても将来的に年間38億円がかかってくるわけで、これから人口が減少してきて税収とか財政に影響がないのか。

【市】

この図は、今ある施設を今と同じ規模で建て替えた場合にこれくらいかかるということを示したものである。現状のまま、今の規模の施設を維持すると、お金が足りないということである。

【会長】

この手の試算というのは、なかなか前提条件であるとか、将来のあるべきシナリオとかによって大きく変わっていくものであるけれども、こちらは全国的に標準的な方法で計算されたものだと思う。

現在のまま、同じように建て替えて行くと、必然的に財政的にはまずいなというところをご理解いただけたらということで、事務局から示されたものである。

(4) 意見交換における回答（意見）

ア 「提案型事業評価」について

提案型事業の評価は、まさにこれから議論していくが、これがなぜ提案されてきたかというのは、現場の担当職員が引っかかっているからだ。これまでと同じようにやるのかとか、若しくはこれは見直すべきではないかということがあるわけで、そういった意味から現場でやっている職員から出てきた声である。

現場は現場なりの改善策を考えているけれども、ぜひ委員の皆さんからも良い知恵があれば、担当課若しくは行革の事務局にでも教えていただければと思う。

イ 「図書館」について

図書館についてのご意見をいただいたが、若干誤解があると思われる。

図書館を複合施設にすればよかったのではないかというご意見だが、図書館のサイズはあれで目一杯のものである。複合施設にすれば大きなものになるから、そうはしなかった。

次に、耐震診断について。

現在の図書館は昭和48年に建てたため古く、新耐震基準の適用前の建築であり、耐震診断をすれば公費の無駄使いであるから、耐震診断は行わない。

図書館ではなくて別のものとして、耐震改修をして他の用途にすることは可能だと思っているが、現段階で耐震診断をして図書館として再利用するということはないので、耐震診断をしなかったということ。

次に、建設地について。

場所もいくつか候補があったにもかかわらず、新建設地はうるさいのではないかとということであるが、そもそも戸を開けている図書館はほとんど無い。必ずエアコンが必要になる。だから、国道156号沿いでも、音の問題というよりも、やはり来やすいランドマークの観点から、あそこに決めたということである。

次に、イニシャルコストについて。

イニシャルコストは一般的には何だと思われるか。用地である。用地を買わなくていい。これは最大のイニシャルコストの削減になるわけで、そういったことも含めていろいろな方のご意見、それから議会等にもご説明して、了解をいただいてあの場所にしたという経緯がある。よって、いくつかご指摘があったが、若干違うところもあると思う。

それから、色々な施設管理を素人がやっているのではないかとのご意見であるが、指定管理になっているところについては、一定額以下のものについては施設ごとに考えられているが、例えばこのままにしておけば建物が崩れるとか、基幹的な設備

が危険な状態であるといった場合は、市がちゃんと話を聞いて、施設課を中心に適切なアドバイスをしている。

ただ、一定額以下の規模の小さいものについても、このような対応をしていくかどうか、また検討していきたいと思う。

ウ 「防災対策」について

防災対策については、大きな課題だ。8月に訓練を実施するが、最大の課題は、砺波市民があまり災害に関心がないということだ。これについてはしっかり取り組んで行きたいと思う。

エ 「企業の人手不足」について

人口対策は、市として最大の課題と思っている。

ただ、一つの問題に手を打てば解決できるというものではないので、幅広く取り組んでいきたいと思っている。

最近人口の社会増は、わりと伸びているので、それほど大きくは変わらないと思われるが、一方で各企業も魅力ある企業になっていってもらわなければならない。特に最近男女雇用均等法以上のことをしないと人が来てくれないという状況なので、その点も市としても一生懸命子育て支援等もしているので、各企業でも働きやすい職場環境をつくるようお願いしたい。

オ 「公共施設の配置」について

公共施設の再編に関するご意見については、例えば旧庄川の児童館をみたときに、かつて子供が多かった時代では確かに機能していたが、昔は放課後児童教室という制度も無かった。今は放課後児童教室があるし、スポーツ少年団もある。

色々な所で子供の行き場所はかつてと違ってきている。そういったときに小さい規模で施設を残す方が良いのか、そうではなくて、例えば校区単位で少しまとまった形のものの方が良いのかということだと思う。

放課後児童教室とかスポ少とかとは違う形で、どっちにも行けないとか行き難いとかといった子供たちのことを考えて、前向きにブロック毎に施設配置を考えることが必要と思っている。